

県政への反映状況（令和元年度「県政への提言」）

<令和元年度に取り組んだもの及び令和2年度 of 取組状況>

● 県立高校の定員について

県西備学区内の県立高校では定員を下回っている状況が続いている。早急に対策をしてほしい。

⇒ 定員割れの状況が続くことは課題であると認識しており、県西備学区では、今後の生徒数の減少が見込まれる中、複数校地を持つ井原高校については、教育活動や学校運営にさらなる支障が生じることから、令和5年度に北校地に集約し複数校地を解消するとともに、令和3年度に園芸科及び家政科を募集停止し、地域生活科を新設することとしました。

引き続き、適切な募集定員の設定に努めるとともに、地元の中学生から進学先として選ばれるよう、多様な興味・関心、進路希望に対応した学びを実現するための特色ある教育活動を進め、さらなる魅力化を図ってまいりたいと存じます。

（教育委員会）

● 就職氷河期世代の就労支援について

後継者不足や人材不足に悩む企業などで、積極的に就職氷河期世代を受け入れてはどうか。行政主導で「合同就職説明会」を開くのも良い。

⇒ 令和2年度から、就職氷河期に卒業時期が重なり、現在やむを得ず非正規雇用等で働く方などを対象に、正社員としての就職を支援するセミナーや、キャリアカウンセラーによる就業相談、ハローワーク就職相談窓口への紹介等を実施しております。

引き続き、就職氷河期世代の方々の社会参加を促進するため、様々な支援に取り組んでまいります。

（労働雇用政策課）

● 多様な性についての理解について

LGBTカップルへ、パートナーシップ関係にあることを証明する宣誓制度に取り組んでいる市町村がある。県としてもこの動きを後押しすべきではないか。

⇒ パートナーシップ宣誓制度は、当該自治体に住所を有するなど一定の要件を満たしたカップルが、パートナーシップ宣誓書等を提出し、自治体が証明することによって、当該自治体の公営住宅の利用などの様々なサービスを利用可能とするものです。パートナーシップの証明については、それぞれの自治体で判断されるべきものでありますが、県としても、LGBTを始めとする多様な性への正しい理解が進むよう、各種催事で啓発活動を行うとともに、県や市町村職員、相談機関の相談員等を対象とした研修の実施など、多様な価値観を尊重し合う社会の実現に向けた取組を進めてまいります。

（人権施策推進課）

● 海外観光客の誘致について

海外観光客の誘致に向けた芸術や歴史についての発信が少ない。県内各地の郷土芸能や伝承などを発信してはどうか。観光は大きな産業であり、通過型ではなく、滞在型のインバウンドとなるよう取り組んでほしい。

⇒ 海外観光客の誘致に向け、県内の芸術、歴史などについて県多言語観光サイト（7言語対応）に掲載するほか、SNSを活用した多言語による情報発信を行っております。あわせて、令和元年度から「外国人旅行者晴れの国満喫プラン開発事業」を実施し、地域の文化や歴史に関心を持つ海外観光客のニーズに合った滞在型コンテンツの造成に取り組んでおります。

（観光課）

● 首都圏アンテナショップの運営について

首都圏アンテナショップについて、県の特産品・名産品・伝統工芸品のPR、認知度・ブランド力が高まるように、商品陳列方法や店内動線、スタッフの行動・意識などを改善していくべきだ。

⇒ アンテナショップの運営事業者と、ショップのコンセプト、運営方針等についての打ち合わせや共有の機会を増やすなど、より一層の連携に努め、店内レイアウトや、スタッフ一人ひとりの接客姿勢など、お客様目線に立った魅力あるショップとなるよう創意工夫を行ってまいります。

（マーケティング推進室）

● 県税の納付方法について

自動車税などの県税の納入について、Pay Payなどのスマホ決済を導入してほしい。

⇒ 令和2年4月から、LINE Pay、Pay Payでの納税を可能としています。今後とも、納付される方の利便性と、それに係るコストなどを総合的に勘案し、納付方法等を拡大してまいります。

（税務課）

● 信号について

国道430号線の金浜バス停の本線信号と脇道の信号が並んで見えるため、まぎらわしく視認しにくい。

⇒ 本線信号と脇道信号が並んで見えないよう、脇道信号の向きを調整しました。

（警察本部）

● 平成30年豪雨災害後復旧時の災害廃棄物の処理について

平成30年豪雨災害において、家庭等から発生する災害廃棄物の処理に日数を要したと記憶しているが、その後、円滑に行うための取組は検討されているのか。

⇒ 発災時の災害廃棄物の円滑・迅速な処理が進むよう、令和2年3月に岡山県災害廃棄物処理計画について、初動対応などの見直しを行いました。
(循環型社会推進課)

● おかやま縁むすびネットについて

おかやま縁むすびネットは、細かな利用案内についての説明が不足している。また、利用者へのフォローも必要。利用者アンケートを実施し、現状確認をしてはどうか。
⇒ 利用案内については、ホームページ内に「よくあるご質問（FAQ）」を設け、適宜更新していますが、より分かりやすく表示する工夫をしました。また、フォローについては、岡山センターに結婚アドバイザーが常駐し、電話や面談によるご相談を受けれていますのでご利用ください。閲覧者向けのアンケートについては、不定期に実施しております。利用する方のご意見等を聞きながら、今後ともサービス向上に努めてまいります。
(子ども未来課)

● 受動喫煙について

子どもや幼児、妊婦等を含めた多くの人々が受動喫煙による健康被害で日々苦しんでいる。喫煙を規制してほしい。
⇒ 平成30年に健康増進法が改正され、対策が強化されています。県でも、令和2年3月に独自の規制を盛り込んだ条例を制定し、県民、事業者等への責務を明らかにするほか、受動喫煙の防止対策の努力義務を定めています。今後とも、望まない受動喫煙を防止する環境の整備に一層努めてまいります。
(健康推進課)

<平成30年度以前の状況で令和元年度に取り組んだもの及び令和2年度 of 取組状況>

● ラウンドアバウトについて

浅口市のラウンドアバウトについて、他県と同様に進入側の一時停止規制を「止まれ」ではなく「ゆずれ」に変えてはどうか。
⇒ 浅口市のラウンドアバウトは、中四国地方初のラウンドアバウトで、道路利用者にとって新しい取組であり、通行方法が十分に浸透していないことから、交通事故防止に効果のある「止まれ」で運用しておりましたが、徐々に周知されたこと、また、県内2例目の吉備中央町のラウンドアバウトでは「ゆずれ」で運用が出来たことなどから、統一を図るため、令和2年2月に、浅口市のラウンドアバウトの進入側の一時停止規制を「ゆずれ」に変更しました。
(道路整備課)

● 借上型仮設住宅の入居期間について

借上型仮設住宅の入居期間を延長してほしい。過去の大規模災害の例をみると、入居期間が2年から3年へ延長されていることが多いようだ。
⇒ 国へ入居期間の延長についての協議を行い、令和元年12月に、2年から3年への延長が認められました。

現在、それぞれの入居世帯から聞き取りを行い、要件に該当する世帯には延長の決定を行っているところです。

また、3年から4年へのさらなる延長について、現在、国へ協議を行っているところです。

(被災者生活支援室)